

## NPO 法人 支え合う会みのり

研修生：嶋津一輝・松井海葵・森歩惟  
花房哲一朗・丸山日向子

■ **団体の設立理念**：支える者と支えられる者が対等な立場を保ち、住み慣れた地域に安心して生き生きと住み続けられる地域社会づくりを目指す

■ **主な活動**：①食事サービス事業(配食サービス・会食会)  
②ミニデイサービス「たまりば」  
③広報活動  
④稲城市委託事業・他機関との連携事業

■ **団体が目指す「これから」**：高齢者にとっても活躍できる場所づくり、生きがいづくり、食を通じて若い人同士が集まれる場の提供



■ **課題**：①ボランティアの確保  
②収入の増加  
③若年代の取り込み



「みのり」の活動を知ってもらうための情報発信

■ **私たちにとって協働とは**：支え合い

## 市民協働研修を受け入れて

### ○市民協働研修の発表会に参加して

市民協働研修の成果発表会に、研修を受け入れた協力団体として参加しました。発表会は、今年度の研修職員が他の職員へ市民団体の活動内容を伝える形で行われ、協力団体は自分たちがどのように理解され評価されたかを伺うのみ。ある団体は、これまで2度研修生を受け入れ、その際に協働への要望等も伝えたそうですが、その後行政の取り組みや改善状況が知らされることもなく、また同じことが職員の行うべき協力事項として挙げられ、がっかりしたと話していました。

市民協働を充実させるための研修であるなら、研修先の団体について予習をさせていただきたいと思えますし、継続的な関係が築ける研修ができれば良いと思えます。一時的な研修の繰り返しでは、市民団体の期待に応えられません。協働研修を機に、市職員と市民団体との交流ができると、私たちも今後の活動への展望が開けてくると思えます。

### ○市民協働研修における PDCA サイクル検証

今回の市民協働研修を、PDCA サイクルというマネジメント手法に当てはめて、検証してみたいと思えます。

研修の趣旨や手法は大変良く組み込みされていると思うが故に、3年目を迎えた研修について、関係者(企画側、仲介側、受入側、研修生)の取り組みに『慣れ』が生じてきてはいないかと若干懸念を抱いています。

今回、研修生を受け入れた2組の市民団体の方から、市民研修に対する感想や意見が寄せられましたので、紹介します。

それぞれの立場で、市民協働研修の意味と目指すべき効果を振り返ることを提案したいと思います。

※ PDCA サイクル：PLAN(計画)・DO(実行)・CHECK(測定・評価)・ACTION(対策・改善)の仮説・検証型プロセスを循環させ、マネジメントの品質を高めようとする概念。

(1) **PLAN**：研修自体はもとより研修から考えられる協働の方向性を再確認する。主催する人事課とサポセンと受入団体の3者で研修の目的と目指す効果を確認・共有する。

市民活動の実態とメンバーたちのまちづくりや活動に対する思いを感じてもらう。ポイントは、協働の基本である対等の立場の再確認と、『協働によるまちづくりや街の活性化』のために必要なそれぞれの立場やパワーを理解して、どんな行動を生み出せるのかを研修の目的にしていけることが大切。

(2) **DO**：3者の事前打ち合わせに基づいて研修を実施する。研修生に対する事前説明の重要性。

(3) **CHECK**：研修報告会は、サポセンと受入団体も交えて開催する。

受入団体側の見解や意見(行政に対する苦情や要望ではなく)を交換し、より様々な可能性を見据えた活動にするための方策について、お互いの立場から考える場にする。

(4) **ACTION**：人事課とサポセンで研修報告の内容を共有し、次年度の研修について内容を検討する場を設ける。

以上、それぞれの立場で検討していただければ幸いです。